

「疑う力」や  
「創る力」を培う

# 「市民ジャーナリズム講座」

2025

5.10(土)

声を束ねて



三原由起子

歌人、歌集『ふるさは赤』、『土地に呼ばれる』、福島県浪江町出身

4.26(土)

報道の現場で、  
何が起きているのか



青木美希

ジャーナリスト、  
著書『なぜ日本は原発を止められないのか？』  
文春新書ほか

4.12(土)

疑う力・創る力  
市民ジャーナリズム



岡田豊

ジャーナリスト、元テレビ朝日アメリカ  
総局長、著書『ジャーナリズム・リテラシー』  
彩流社ほか

6.21(土)

『週刊金曜日』  
編集長を3年間務めて



文聖姫

週刊『金曜日』発行人、  
前編集長

6.7(土)

変革の拠点としての  
メディア



熊谷伸一郎

月刊『地平』編集長、  
主著『なぜ加害を語るのか』ほか

5.24(土)

ネットメディアの  
威力と課題



かさこ

メディアアウオッチャー、  
映画『シロウオ』監督

全6回

前納予約制 各回2000円 定員25人  
全回参加者割引あり

土曜日 13:30-16:40 開催

会場 神崎建設「桜匠館」 井の頭線  
「浜田山駅」7分

主催：千曲川・信濃川復権の会 / コーディネーター：矢間秀次郎

**い**まや、「喧噪の時代」である。真贋ないまぜのノイズが激しい。ほしい真実の情報がタイムリーに得られているだろうか。人々の価値観や行動規範が揺らぎ、多様性がアメーバのようにひろがっている。第50回衆議院選の結果も新聞各紙に「自公 過半数割れ」との大見出しで、多様な「党派」が乱舞した。

この変革の兆しは、政治の分野にとどまらない。社会・経済・文化にも変容をもたらし、グローバルなスケールで脈動していく。いっそう情報の役割がふくらみ、ジャーナリズムが「羅針盤」たりうるかが問われる。しかし、既存のジャーナリズム（ラジオ・テレビ・新聞・雑誌等のメディアを含む）の衰退がいわれて久しい。SNS等が台頭してきたものの、混沌がつづいているからだ。

こうした状況をどう打破するか——「市民ジャーナリズム」の実践活動（『奔流』創刊15周年）をふまえ、手のひらを開いて学びあい、「疑う力」や「創る力」を培う講座を下記の要綱で開く。ジャーナリズムの本来の意味と役割をかみしめるとともに、精気に満ちた息吹をとりもどす一助としたい。国籍・年齢・性別・学歴を問わず、どなたでも歓迎。“学びの広場”にご参集ください。

### 期間

2025年4月12日、26日、5月10日、24日、6月7日、21日（月2回、土曜日午後全6回開催）

### 会場

神崎建設「桜匠館」（東京都杉並区浜田山4-10-8 井の頭線「浜田山駅」7分）。略図参照。

### 参加費

@2000円（全6回参加予約者2000円引き10,000円。定員25人〆切、前納予約制。各回個別5人まで追加参加可）

### 内容

拡大ゼミナール方式（コーディネーター：矢間秀次郎）

- ① 13:00 開場
- ② 13:30～15:10 講義、質疑応答（100分）
- ③ 20分休憩
- ④ 15:30～16:40 「わが文章・編集作法（全6回、各70分）」

『奔流』編集人：矢間が、童門冬二・内藤国夫・井上ひさし・桑原武夫・佐多稲子・国分一太郎・岡田喜秋先生の著書を教材に担当。右の段参照。

### 講師陣 ▶表面参照

### 特典

- ① 6回の皆勤者に、『奔流』第36号、37号を贈呈。
- ② 最終6回目に、テーマを二つ全受講生に提示し、論文・評論・ルポ等で2000字。最優秀作品は『奔流』に掲載（稿料@10,000円（税込）進呈）。審査は、本講座企画委員&講師陣の有志が厳正、公平に担当する。〆切8月末。発表9末日。文書で全応募者に通知する。

### 主催（申込、振込先）：千曲川・信濃川復権の会

FAX 042-381-7770 またはメール h-yazama@oregano.ocn.ne.jp へ。名前・住所・電話番号を明記。

▶振込先：郵便振替 00120-0-710488 へ参加費振込みで名簿登録（先着25人定員〆切）。

## 市民ジャーナリズム講座「わが文章・編集作法」一覧

●教材&■講師の小文



第1回  
4月12日

**童門冬二著『童門式』資料整理法** 実業之日本社 1999年1月12日刊。定価1400円+税。●テーマをどう決め、資料をいかに選ぶか。小説を書くための“コア”となる「心」とは。■2024年冬・79号タウン誌『Life Crossing』「敗戦国の原点をふまえ歴史に向き合う日々」。\*全員に原本を配布。



第2回  
4月26日

**内藤国夫著『私ならこう書く〜体験的文章上達法〜** ぴま書房 1980年12月5日刊。定価730円。●辣腕記者がはじめて明かす、簡潔・明快な文章の書き方。削って、削って、なお削り抜く。書き出し十行、とめの一行が勝負。■2024年10月25日1494号『週刊金曜日』論考「『公益通報者保護法』の改正～問われる市民の底力」。



第3回  
5月10日

**井上ひさし著『自家製文章読本』** 新潮社 1984年4月1日刊。定価920円。●話すように書くな。踊る文章。■1960年12月号『学燈』「學燈作文教室」入選「空」。



第4回  
5月24日

**桑原武夫著『文章作法』** 潮出版社 1980年3月5日刊。定価980円。●できるだけ簡潔明瞭に、達意の文章でありたい。■1993年2月22日『徳島新聞』朝刊：「小さなコインに映えた原風景」。



第5回  
6月7日

**佐多稲子・国分一太郎編著『文章創作教室』** 創林社 1980年5月10日刊。定価1200円。●視点のおきどころと人物心理の描写、構成のさまざま、人物の描き方。■2014年10月18日『朝日新聞』朝刊：私の視点「被爆70年～歴史検証の責任果たそう」。



第6回  
6月21日

**岡田喜秋著『私の文章作法』** ぎょうせい 1978年7月15日刊。定価1200円。●テレビ時代の盲点、文体と構成法。■2007年8月1日『東京都交友会会報』第256号「たった一回だけの人生～三つの目標のゆくえ」。

\*教材図書の本は、毎回、受講者間でオークションを開き、頒布します。



●東京都杉並区浜田山4-10-8  
●京王・井の頭線「浜田山」徒歩7分（500m）  
●南北バス「すぎ丸」けやき線（阿佐ヶ谷〜浜田山）バス停「浜田山小学校」徒歩5分